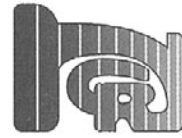


フィリア・レター

～真の友人からの手紙～



発行所: 中部ろうさい病院

〒455-8530

名古屋市港区港明 1-10-6

TEL 052-652-5511

FAX 052-653-3533

<http://www.chubuh.rofuku.go.jp/>



院長代理就任のご挨拶 — 年々加速する超高齢化社会 —

院長代理 加藤 文彦

新年あけましておめでございます。吉田純前院長の後任として、本年1月1日をもちまして院長代理に就任いたしました加藤文彦と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

わが国では、2007年に世界で初めて65歳以上の人口が総人口の21%以上となる超高齢化社会を迎えました。そして高齢化は今後もますます加速し、昭和20年代前半に生まれたいわゆる「団塊の世代」の方々が天寿を全うされる2025年以降には65歳以上が30%以上になると予測されています。高齢化に伴い、国民一人ひとりの生活感や健康観も大きく変化しており、医療や介護、福祉においても時代に合った対応を行っていかねばなりません。もっと広い視野で見れば、医療に限らず現在・未来のわが国の諸問題は、その多くが高齢化と無縁ではられないと思います。

一方、年末に中央自動車道でトンネルの天井板が落ちるといふ悲しい事故がありました。わが国がこれまで長年かけて作り上げてきたインフラ（道路、鉄道、ライフラインなどの公共の社会基盤）も「高齢化」してきているのかと考えたのは私だけではないと思います。今後のインフラ整備というのは、新しく作るのではなく、今あるもので必要なものを点検補修していくことに重点が置かれるようになるかとも考えます。

ご存じのごとく、昨年末に総選挙があり、約3年間の民主党政権が自民政権に交代いたしました。国民も社会も高齢化したわが国に対して「やさしい政権」であって欲しいなと思うのは私だけではないと考えます。今年にはわが国が「高齢化」によりやさしい一歩を踏み出した年であったと将来評価されることを祈念して新年と、院長代理就任のご挨拶といたします。

今月号のお知らせ

- ① 院長代理就任のご挨拶 — 年々加速する超高齢化社会 —
…………… 院長代理 加藤 文彦
- ② 新たなる風…………… 副院長 正木 道熹
- ③ 今後の産婦人科について…………… 産婦人科部長 藤原 多子
- ④ 「急性呼吸器疾患について ～肺炎球菌ワクチンで予防を～
…………… 呼吸器内科副部長 町田 和彦
- ⑤ リニアック導入について
…………… 放射線治療専門放射線技師・放射線治療品質管理士 坂本 享久

- ⑥ 白鳥・市民健康セミナー開催報告
…………… 広報委員会副委員長・心療内科部長 芦原 睦
- ⑦ 飲みこみづらい・むせるといった症状がある方はご相談ください
…………… 摂食・嚥下障害看護認定看護師 安井 潤子
- ⑦ 「COPD」って何だろう??
…………… 慢性呼吸器疾患看護認定看護師 山内 美樹
- ⑧ 災害訓練を終えて…………… 防火災害対策委員長 湯川 泰紹
- ⑧ 編集後記
- ⑧ 当院の理念・当院の基本方針



医師



新たな風

副院長 正木 道熹

昭和52年4月当院に赴任してから、35年となりました。地域の皆様方の暖かい支援で診療が継続できたことに感謝致します。

振り返ってみると、昭和30年に中部ろうさい病院は、日本が大戦後やっと復興し、産業活動が活発となり、就労中の事故が多くなったことにより、労働者の健康管理・治療が必要となり設立されました。当院が設立して22年経過した頃、私が赴任した頃は、大阪万博が間近に近づき、日本経済が隆盛となり、単なる労災事故のみでなく、総合的に労働者を診る病院への転換期になっていました。赴任当時の院長は、名古屋大学医学部の名誉教授の山田弘三先生でした。名古屋大学医学部耳鼻咽喉科後藤修二名誉教授から岐阜大学耳鼻咽喉科時田喬教授に依頼があり当院に赴任しました。山田弘三院長の口癖は「国民医療は国の経済のバロメーター」であり、機会あるたびに述べられていました。また、「個々の医師はそれぞれの組織でペースメーカーになれ」と口酸っぱく述べていたことが特に強

く記憶に残っています。

労災事故は労働安全衛生法が広く普及し、年々減少しつつあります。しかし、日本経済のバブルが弾け、その後もリーマンショックで日本経済の負の連鎖が止まりません。かつ団塊世代が超高齢者になり、国民医療費が年々増大し、国全体の活力低下が大変危惧されている今日この頃です。国が金を出せば解決できる状況ではありません。人々の意識改革が大きな鍵となります。自ら立つには、《健康管理、就労管理、社会生活管理、日常生活管理》が前提として必要であります。女性が働ける環境整備の必要性が各界で言われています。これに対する当院の対応は不十分であり、さらなる整備が必要と感じています。今後の当院の方向は、高齢勤労者が健康を維持しつつ就労して社会に貢献できるようにする病院組織に変身することです。多くの高齢勤労者が社会に貢献でき、少しでも国民医療費の低減に役立つようにすることです。共に生き残ることです。

★「フィリア・レター」は、中部ろうさい病院が、患者さんに向けて当院の現況や新しい医療情報などを発信したり、患者さまの建設的な意見を反映する広場として発行しています。



医師

今後の産婦人科について

産婦人科部長 藤原 多子

昨年12月末日に加藤千豊副院長兼産婦人科部長が退職され、本年1月より産婦人科の診療は私、藤掛佳代先生、中村謙一先生の常勤医3人体制でのスタートとなりました。現状は名古屋大学より代務医師を週に2回派遣して頂き、これまでの診療体制に近い状況を維持するように努力しております。今年3月には名古屋大学付属病院より1人医師が異動してくる予定となっています。これまでの5人体制から4人体制となりますが、可能な限りこれまで同様に周産期領域・婦人科領域・不妊症を含む産婦人科全般にわたり高度な診療を提供する事ができるように努めていくつもりです。しかし、医療を提供する際の安全面を重視するために、しばらくは分娩の取り扱い件数を制限させて頂いております。さらに、母体・新生児の管理におきましてはローリスク妊娠を中心に診療しております。ハイリスク妊娠に関しては、NICU(新生児集中治療室)やMFICU(母体胎児集中治療室)での管理が必

要となるような場合には適切な時期に総合周産期母子センターに母体搬送・紹介させて頂いております。これまで当院で出産された事のある方でも上記理由により分娩をお受けする事ができない場合もありますので、ご迷惑をおかけ致しますがご了承下さい。妊婦さんが希望をもって出産し、生まれてきた赤ちゃんが健やかに成長できるように、より一層充実した安全な周産期医療を提供できるようにスタッフ一同でがんばってまいります。私自身としては当院に赴任する前はサブスペシャリティーとして婦人科悪性腫瘍の臨床や研究に従事しておりましたので、今後も婦人科悪性腫瘍に対しては手術や化学療法などを組み合わせ、一人一人の患者さんにベストと思われる治療を提供できるよう診療致します。また、地域がん診療連携拠点病院を目指す当院の体制に少しでも協力していけたらと思っております。より良い診療を目指してまいりますので、よろしくお願い致します。

★中部ろうさい病院のホームページで、〈病院の情報〉〈フィリア・レター〉〈ろうさい病院つうしん〉がご覧いただけます。携帯電話からもアクセスできます。どうぞ、ご利用ください。

医師



「急性呼吸器疾患について ～肺炎球菌ワクチンで予防を～」

呼吸器内科副部長 町田 和彦

冬は「かぜ症候群」「気管支炎」「細菌性肺炎」などを中心に急性呼吸器疾患を発症しやすい時期です。ほかに季節とあまり関連ないものとしては、間質性肺炎(急性増悪)、気管支喘息発作、気胸などもみられます。間質性肺炎や気管支喘息は、咳、痰、呼吸困難などの感染症に似た症状がみられることが多く、細菌やウイルスなどの感染症を合併したり、感染症に続発する場合があります。このため、症状だけで疾患を特定することが困難な場合があり、細菌検査、画像検査、採血などが必要となります。

通常の「かぜ」であれば、ほとんどはウイルスが原因であり十分な休養や栄養、保湿などで自然に改善します。しかし、1週間以上症状が持続したり悪化したりする場合には他の病気の可能性があり、とくに高齢者、乳幼児、妊婦や慢性呼吸器疾患、心疾患、糖尿病などの基礎疾患を有する場合には肺炎などを合併する場合もあるので注意が必要です。

「気管支炎」や「細菌性肺炎」では病状にあわせて補液や抗生物質の投与を行いますが、全身状態が悪い場合には入院治療が必要となり、重症の場合は集中治療室での治療となります。「間質性肺炎」や「気管支喘息」も呼吸状態などにより精密検査、治療方針を決定します。

とくに冬は感染症により悪化する疾患が多く予防が重要です。手洗い、うがい、マ

スクの重要性は言うまでもありませんが、最近マスコミでよく取り上げられている「肺炎球菌ワクチン」をご存じでしょうか。平成23年の厚生労働省の統計によると、肺炎は脳卒中を上回り、日本人の死因第3位になりました。そのうち肺炎球菌という細菌により起こる肺炎に対しては、ワクチンによる予防が可能となっています。このワクチンは1回の接種で肺炎球菌の約90種類の型のうち23種類の型に対して免疫をつけることができ、これだけでも成人の肺炎球菌による感染症の80%以上がカバーできます。さらに、予防接種により肺炎球菌だけでなく、その他の病原菌による肺炎の発症抑制や死亡率低下にも効果があると報告されており、高齢者、慢性疾患を有する方などは積極的におすすめしています。肺炎にかからない訳ではありませんが、予防接種による効果は大きいと考えられています。ただし注意点があり、1回目の接種から約5年間有効とされるため再接種が必要であり、2回目以降の接種では副反応(注射した部分が赤く腫れ、強く痛むなど)がより生じやすいとされます。

冬はインフルエンザワクチンと併用することで発症率や死亡率の減少にさらに有効と言われます。できるだけ、11～12月頃までにインフルエンザワクチン接種も心がけましょう。なお、各自治体では高齢者や乳幼児などを中心にした助成制度もあります。ご不明な点があれば当院までお問い合わせ下さい。



技師



リニアック導入について

放射線治療専門放射線技師

放射線治療品質管理士 坂本 享久

現在、日本人の2人に1人が“がん”になり、3人に1人が“がん”で亡くなっています。日本におけるがん治療は、主に、手術・化学療法・放射線治療が3大治療として確立されており、皆様にも広く知られていることと思います。この中の放射線治療ですが、近年ではコンピューターをはじめとする機器・技術のめざましい進歩もあり、患者のQOLの低下を妨げない治療法として注目されるようになりました。今までの日本では、“がん”患者の約20%しか放射線治療を受けてきませんでした。手術と同程度の治癒率が期待できる“がん”であっても、治療として選択されるのは手術ということが多く見受けられます。ところが、欧米で放射線治療を受ける“がん”患者は、全“がん”患者の60%にも上っています。これには、放射線治療医の数の違いというのが大きく影響していますが、放射線治療におけるQOLの低下が手術と比べ著しく少ないことも関係しているようです。放射線治療の場合、治療開始から終了まで2か月くらいかかってしまいます。治療による副作用も出てきます。しかし、手術と違い、組織の機能を温存したまま“がん”治療ができるため、日本でも今後ますます普及していくと思われま

す。16年もの長きに渡り稼働してきた当院の放射線治療機器は、装置の老朽化や治療技術の高度化により、平成24年9月にその役割を終えることとなりました。昨年12月までに機器の入れ替えが終了し、現在、春稼働に向けて

調整を行っているところです。この調整が終わり次第、新しい放射線治療機器を使った“がん”治療が始まります。

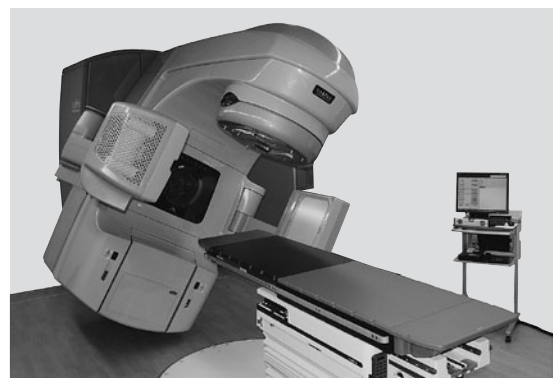
新しい機器になってどんなことができるか？

「高精度放射線治療」

この一言に尽きると思います。

今まで以上に精度の高い“がん”治療を施行することが可能になります。その結果、治療効果を上げつつ副作用を軽減させることが期待できます。治療後の患者さんのQOLの低下は最小限に抑えられ、肉体的にやさしい治療といえるのではないのでしょうか。また、条件さえ整えば、定位照射・IMRTといった、より高度な放射線治療を提供できる装置となっています。

“がん”患者は、この6年間で24万人増えました。今後、どんどん増えていくと予想されます。それに伴い放射線治療のニーズもより一層高まっていくことでしょう。愛知県“がん”診療拠点病院として皆さんの期待に応えるべく高精度放射線治療を提供していきたいと思





医師



第3回 白鳥・市民健康セミナー開催報告

広報委員会副委員長

心療内科部長 芦原 睦

去る10月28日、第3回市民セミナーが開催されました。今回のテーマは「脳卒中医療の最前線」でした。雨天にもかかわらず、420名強の参加者に恵まれ、会場はほぼ満席でした。脳卒中への関心の高さがうかがわれます。

亀山神経内科部長の名司会で始まったこのセミナーですが、トップバッターは梅村脳卒中内科部長の「脳梗塞の初期対応」というお話でした。早期発見、早期治療の重要性を説かれました。

二人目が高須脳神経外科部長の登場です。脳外科手術の実際をビデオでみせていただきましたが、2ミリの血管内の塞栓を除去する手術の手際よさというか・・・ただただ技術に驚きました。三人目が服部健一先生のカテーテル手術のお話でした。これも医学の進歩をまのあたりに見たという感じで、感銘を受けました。二人の脳外科医はなかなかカッコ良かったです。

ケースワーカーの森下さんのお話は、きわめて実務的で聞かれた市民の方に急性期病院の特徴と地域連携の内容がよく伝えられたと思います。

特別講演は植谷循環器内科部長の司会で「高血圧と心血管病」のタイトルのもと、名古屋大学循環器内科教授 室原豊明先生の格調高い講演でした。医学の基礎的な分野から高血圧症のメカニズム、その診断と治療に至るまでわかりやすく解説していただきました。

会場の市民の皆様の満足度はかなり高いものだったと思われます。

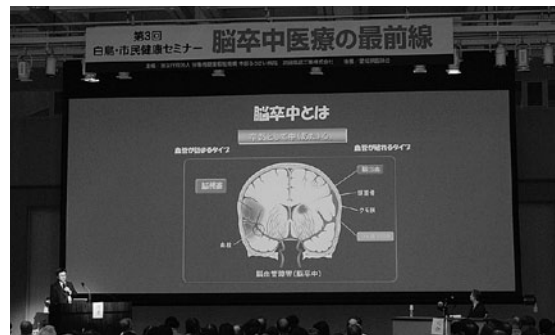
いずれの講演に対しても、会場からいく

つかの熱心な質問がありましたし、演者と聴衆者のあふれる熱気が会場を包んでおりました。

数々のアンケートを頂きましたので、以下に紹介します。

- ・具体的に説明していただき、脳ドックを受けてみたいと思いました。
- ・手術の映像やイラストを使用しての説明は理解がしやすく、とても分かりやすかったです。
- ・脳梗塞における症状や治療などを詳しく説明され、最近の治療はめざましく進歩しているなあと思いました。
- ・数年前に家族が脳卒中で倒れ、救急車で運ばれ入院して治りました。運がよかったと周りから言われています。

このような形で市民セミナーを終えることができましたことは、広報委員会として大変光栄に思います。今後も有意義な情報提供ができる市民セミナーを開催していくつもりです。次回は「骨粗鬆症医療の最前線」というテーマで3月20日開催で、テーマは整形外科領域の話を予定しています。中部ろうさい病院は、いつも市民の目線で、市民の皆様とともに歩んでまいります。





飲みこみづらい・むせるといった症状がある方は ご相談ください

摂食・嚥下障害看護認定看護師 安井 潤子

こんにちは。摂食・嚥下障害看護認定看護師の安井です。当院には、摂食・嚥下障害看護認定看護師が2名います。

嚥下障害になると食事や水分でむせる、飲み込みづらい、食事の時間が1時間以上かかる、食事の量が減った、最近急に体重が減ってきた等の症状がみられる場合があります。嚥下障害は、脳梗塞などの病気によるものだけでなく、年齢に伴う体の変化や急激な体重減少、筋力低下などでも起こる可能性があります。そして、むせる、飲み込みづらいといった症状がないにも関わらず、肺炎を繰り返し

ている方も、実は飲み込む機能が落ちている可能性があります。

私たちは、そのような症状がある方の飲み込みが上手くできるかを評価します。そして、実際に食べる場面を通して、安全に美味しく食事が食べられる方法や工夫を一緒に考えます。また、嚥下障害がある方の食事形態、食事の食べ方や簡単な訓練方法の指導を行っています。

もしかして、嚥下障害があるのではないかとと思われる方や何か食事のことで心配のある方は、いつでも気軽に相談にお越しください。

「COPD」って何だろう??

慢性呼吸器疾患看護認定看護師 山内 美樹

皆さんは「COPD」という病気をご存じでしょうか。今、CMでも放映しており、以前は桂歌丸さんや和田アキ子さんも出演し、COPDの疾患であることを言っています。この「COPD」とは慢性閉塞性肺疾患といい、肺気腫や末梢気道疾患、慢性気管支炎といった気道や肺の病気です。原因として喫煙によるタバコの煙が最大の危険因子です。厚生労働省の調査によると、平成11年以降死因順位の第10位に位置しており、今後患者数は増加傾向にあると言われていています。症状としては慢性の咳や痰、活動時の息苦しさ、進行すると体

重減少や食欲不振が出現します。風邪や加齢によるものと見過ごされやすいですが、喫煙歴があり、咳や痰が慢性的にある・歩行時に息切れがするといった症状がある場合は、受診をおすすめします。この季節は特にインフルエンザや肺炎によって症状が進行・悪化がみられるため、まず、心当たりのあるかたは早めの受診をおすすめします。

今現在、COPDで治療をしており、息苦しさがあつて日常生活で困っていることや気になることがあればいつでもご相談下さい。



災害訓練を終えて

防火災害対策委員長 湯川 泰紹

今年度も10月6日(土)午後には災害訓練を実施いたしました。当日は秋晴れの中、院長以下170名を超える職員、看護学生が参加し、港消防署からの救急車と隊員の方にも加わっていただきました。近隣の学校で震災による外傷患者が多数出たと想定し、患者搬送、トリアージ(重症度の区分け)、そして治療を行いました。各部署間の連携に多少課題は残したものの本番さながらに実施することができました。さらに院外からボランティア、港区役所、港警察署そして隣接の港養護学校の方々が多数、訓練の見学に来院され、終了後には訓練に対する感想のお言葉もいただきました。ご参加もしくは見学していただいた方々にはこの場をお借りして深く御礼申し上げます。

災害訓練も毎年実施していますとマンネリ化が避けられません。そこで今年度は2つの新しいことを行いました。1つは実際に東日本大震災を経験された東北労災病院の職員の方4名をお招きして9月12日(水)に院内向けに講演会を開きました。震災発生直後から停電、ガスと水道の供給ストップ、食料調達の苦勞、そしてその厳しい状況での診療業務などを事務、検査、看護の部門から

お話しいただきました。スライドによる実際の映像を含めてお話があり、今後の当院での災害対策に生かせるものと考えています。

もう1つは、先の大震災で停電後に歩行できない患者さんの上階への移送に苦勞された経験から、寝たきりもしくは車いすの患者さんを1階から2階へ搬送する訓練を災害訓練の際に行いました。特殊な寝袋型のエアーストレッチャーを借入れて、患者さんの代わりに職員やボランティアの方々を外来中央階段で下から上へ搬送しました。また車いすに乗ったままでの搬送も行い、安全に搬送できることを確認しました。

当院は東南海地震が発生した際には、最大3.6mの津波が押し寄せ、大きな被害をこうむると想定されています。昨年の東日本大震災を教訓に有事に備えることが必要です。ただ人間というのは自分たちが実際に経験してみないことには、その必要性や心構えがなかなかできないのも事実です。当院は愛知県の災害拠点病院に指定されていることもあり、有事の際には病院自体の被害に対応しながら、被災された患者さんたちの診療を引き受ける必要があります。そのためにも今後、日常診療のみならず有事の際の対応も想定しながら着実に対策・準備を進めてまいります。

～～ 編集後記 ～～

冬本番ということで厳しい寒さが続いております。インフルエンザの季節の到来です。ご存知のことと思いますが、インフルエンザには、手洗い・うがいの習慣、マスクの着用、十分な栄養をとって抵抗力を高めるなど日ごろの予防が重要です。

感染を拡大しないために一人ひとり心がけていきましょう。

当院の理念

皆さんとの出会いを大切にし、苦しみを分かち合い、健康で潤いある生活を送れるよう職員一同努めます。

当院の基本方針

- ・ 医療の質の向上と安全管理の徹底
- ・ 生命の尊厳の尊重と患者さん中心の医療
- ・ 人間性豊かな医療人の育成と倫理的医療の遂行
- ・ 地域社会との密な連携と信頼される病院の構築
- ・ 災害・救急医療への積極的な貢献と勤労者に相応しい高度医療の提供